

097 二度目の受難予告(再び自分の死を予告する)

ルカによる福音書 9 : 43~45、マタイ 17 : 22~23、マルコ 9 : 30~32

ルカによる福音書 9 : 43~45

43 人々は皆、神の偉大さに心を打たれた。

再び自分の死を予告する

(マタイ 17 : 22 一行がガリラヤに集まった。) イエスがなされたすべてのことに、皆が驚いていると、イエスは弟子たちに言われた。

44「この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は(今にも)人々の手に引き渡されようとしている。」

(マタイ 17 : 23~24 そして殺されるが、三日目に復活する。弟子たちは非常に悲しんだ。)

→ (回復訳)「これらの言を、あなたがたの耳に納めておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしている」。

45 弟子たちはその言葉(の真意)が(明確に理解できず)分からなかった。彼らには(イエスが言われている言葉の意味が)理解できないように隠されていたのである。(自分たちのおぼろげな不安が的中することを恐れた) 彼らは、怖くてその言葉について尋ねられなかった。

→ (回復訳)しかし、彼らはこの言われたことがわからなかった。それは、彼らが理解できないように、隠されていたのである。彼らはこの言われたことについて、イエスに尋ねることを恐れた。

→ (リビング・バイブル) ところが弟子たちには、何のことを言っているのかさっぱりわかりませんでした。このことばの真意が隠されていたからです。それに、聞き返すのもこわかったのです。

→ (ヨハネによる福音書 13 : 6~7) シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。

イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。

【参考】すべてが知らされていないことの祝福

裏切られ、逮捕される (マルコによる福音書 14 : 43~52)

(私たちも同じだが、弟子たちがすべてを理解していたなら、彼らは怖くて逃げ出していたであろう。) さて、イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダが進み寄って来た。祭司長、律法学者、長老たちの遣わした群衆も、剣や棒を持って一緒に来た。イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしが接吻するのが、その人だ。捕まえて、逃がさないように連れて行け」と、前もって合図を決めていた。ユダはやって来るとすぐに、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。人々は、イエスに手をかけて捕らえた。居合わせた人々のうちのある者が、剣を抜いて大祭司の手下に打ってかかり、片方の耳を切り落とした。そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかった。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げってしまった。

一人の若者(=マルコ)が、素肌に亜麻布をまもってイエスについて来ていた。人々が捕らえようとすると、亜麻布を捨てて裸で逃げってしまった。